

ミツバチを飼いたい

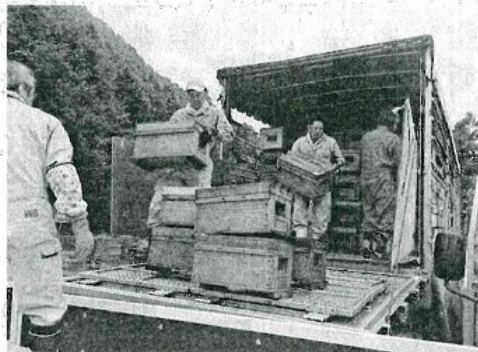
④

9月16日午前6時、岐阜県山
 県市。秋田屋本店(岐阜市)の
 蜂場を再訪すると、札幌ナンバ
 ーの大型トラックがやってき
 た。5軒の養蜂家から
 集めた蜂の巣箱480
 個が積まれていた。巣
 箱の小さな窓からは無
 数のミツバチが動いて
 いるのが見えた。

「あれっ、ズシッとこないぞ」
 木箱をトラックから運び出す社
 員たちから次々に声が上がっ
 た。素人の記者でさえ、持った
 箱に軽いものがあるこ
 とに気付いた。箱の中
 で響く蜂の羽音も小さ
 く感じられた。

学 験 体

養蜂部の小野木正春
 さん(46)は「今季は
 蜂にとって敵しなかつ
 た」と振り返る。蜜の
 採取が始まった春先に
 九州で熊本地震が起こ
 り、思うように蜂の世
 話ができなかったとい
 う。やっとたどり着い
 た北海道もこの夏は台風続き。
 思うように蜜を集められなかつ
 たうえ、幼虫もあまり増やせな
 かったそうだ。



北海道から荷下ろしされた巣箱はハウス内の受粉に使う(岐阜県山県市)

な形には育たないとい
 う。今回、初対面以来ずつ
 と現場を案内してくれた
 後藤真人養蜂部長(65)
 も「これだけ蜂が少ない
 と、巣箱の買い取り価格
 を昨年より引き上げなく
 てはならない」と顔を曇
 らす。出荷価格も上がり、
 果実などの生産コストに
 も影響を及ぼす。

これらのミツバチの中には、
 女王蜂のいる群れから切り離さ
 れ、小さな集団に分けられてハ
 ウス向けに出荷
 されるものもい
 る。何だかミツ
 バチの地方支局
 のようでもあ
 る。「君らは何かと大変みたい
 だけど、ぼくも転勤族。お互い
 頑張ろうや」。次々に飛び立っ
 ていく蜂に同志の思いでエール
 を送った。

花を追う旅終えた巣箱運ぶ

地震や台風で蜜・幼虫少なく

これらの蜂には次の仕事が待
 っている。10月半ばから全国の
 農協や農家に出荷され、冬場に
 ハウスなどで生産する青果物の
 花を受粉する。代表的なのが
 イチゴだ。蜂がいないと、めし
 べが均等に受粉できず、きれい
 4年でヒトもいなくなるだろ
 う」という言葉を残したのもつ
 なずける。

ひと言

定年後に養蜂を始めたいと考えるが、都会にある自宅では難しそう。 FUNで近所の洗濯物を汚すこともある。